

第37回電気通信普及財団賞 受賞論文 ～テレコム人文学・社会科学賞～

<順不同、敬称略>

※受賞者の所属は論文・著作発行時のものです。

入賞

「未来技術の倫理:人工知能・ロボット・サイボーグ」

(書籍発刊: 勁草書房, 2020年12月)

河島 茂生 青山学院女子短期大学 准教授

本書は、「未来技術をめぐる倫理の基礎づくり」という非常に大きな問題に真正面から取り組んだ力作である。人間はオートポイエーシスであってアロポイエティック・システムである人工知能・ロボット・サイボーグは人間に代替しえないという主張をさまざまな観点から丁寧に論じている点が高く評価できる。最後の「まとめと展望」にある「人間のことは人間が決めるという矜持をもってコンピュータを認知の拡大のために活用していくことで未来技術の倫理が開けていく。」という言説は言うは易く行は難し。著者の思索の一層の深化を期待したい。

奨励賞

「電子投票と日本の選挙ガバナンス—デジタル社会における投票権保障」

(書籍発刊: 慶應義塾大学出版会, 2021年9月)

河村 和徳 東北大学 大学院情報科学研究科 准教授

本書は、日本で電子投票が進まない要因について、アンケート調査を行い悉皆的な研究を行った貴重な業績であると評価することができる。今後はこの地道な研究を活かして、信頼性を保てる電子投票のあり方や本人確認・投票意思の確認などへのインターネット活用の可能性についても研究を行い、電子投票のあり方について総合的かつ明確な提言を行う方向での研究を期待する。

奨励賞

「歴史認識問題とメディアの政治学—戦後日韓関係をめぐるニュースの言説分析—」

(書籍発刊: 勁草書房, 2021年6月)

三谷 文栄 日本大学 法学部新聞学科 准教授

本書は、日韓間の歴史認識問題について政治エリート、メディア、世論が相互作用する「意味づけをめぐる政治」という観点から分析を加えた優れた研究書である。記録性の高い新聞が主たる分析対象になっているが、CNNの報道やインターネット上の言説も視野に入れている。今後は、外交問題に関する現実の構築・共有について、インターネット上の言説の分析にもっと重点をおいた研究の深化・発展を期待する。

奨励賞

「人工知能に未来を託せますか？—誕生と変遷から考える」

(書籍発刊：岩波書店，2020年6月)

松田 雄馬 合同会社アイキューベータ 共同代表

「未来をAIに任せられるか」といったことはよく見られる問題提起である。著者は「簡単にAIに置き換えられるほど単純なものではない」と異を唱える。本書は、AIと人間の関係性を考察することで人間の生き方を問う内容である。情報社会に関する幅広い議論が行われており、学術書としての評価は低いがAIに関してわかりやすく解説し読み応えのある良書である。AIの限界を指摘しつつも、その先にどのような状況が存在するかを明らかにすることが今後、期待される。

奨励賞

「サイバーセキュリティと刑法—無権限アクセス罪を中心に」

(書籍発刊：有斐閣，2020年9月)

西貝 吉晃 千葉大学 大学院専門法務研究科 准教授

本書は、膨大な比較法研究に基づいて、わが国の不正アクセス禁止法等についての分析・提言を行っている論文であり、この分野の業績として高く評価できる。サイバーセキュリティの仕組みを支えるものとして刑事法制は重要であり、今後とも無権限アクセス法制以外にも幅を拡げて研究を進化されたい。この分野は刑事法以外、法学以外の分野からも注目されることになるため、法学的素養のない者にも分かり易く論述・記述されると良い。

第 37 回電気通信普及財団賞 受賞論文 ～テレコム人文学・社会科学学生賞～

<順不同、敬称略>

※受賞者の所属は論文・著作発行時のものです。

奨励賞

「No More Handshaking: How have COVID-19 pushed the expansion of computer-mediated communication in Japanese idol culture?」

(Proceedings of ACM CHI Conference on Human Factors in Computing Systems,
2021 年 5 月)

矢倉 大夢 筑波大学 大学院理工情報生命学術院 システム情報工学研究群
知能機能システム学位プログラム 博士後期課程 1 年

本論文は、「アイドルとファンの交流」という限られた局面であるものの、新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 禍における CMC の変容を intervenability (干渉可能性) という新たな関係概念を用いて分析している点は、意欲的・先駆的なものとして評価できる。今後、この intervenability という概念の精緻化とそれがどの程度まで有効かという点を吟味していくことが求められる。

奨励賞

「法とアーキテクチャによる非マッチング型プラットフォーム規制の在り方」

(未発表：学士論文)

高木 美南 九州大学 芸術工学部 芸術情報設計学科 4 年

本論文は、非マッチング型プラットフォーム規制について、法とアーキテクチャによる規制に加え、両者の関係性について名誉毀損、著作権侵害、フェイクニュース規制など 5 つの分野を取り上げて検討を加えた意欲作である。5 つの分野はそれぞれに 1 つの論文で検討をすることも可能なテーマであり、各テーマの掘り下げは十分とはいえないところもあるが、学部生の卒業論文としては、それらをととも上手く整理・分析した優れた論文である。

奨励賞

「Collaborative consumption in China: An empirical investigation of its antecedents and consequences」

(Elsevier, Journal of Retailing and Consumer Services, 2021 年 9 月)

倪 少文 筑波大学 大学院システム情報工学研究科 社会工学専攻 博士後期課程 3 年

本論文は、シェアリング・エコノミーの進展がコラボ消費にプラスに働くことを、中国の消費者を対象に丁寧な実証分析で示した点は高く評価される。同種の先行研究の多くは欧米諸国を対象としたものであり、中国の事情に詳しい著者のアドバンテージが生かされた論文である。分析結果が日本でも当てはまるのかといった普遍性については疑問であるが、日本、欧米との比較研究も今後のテーマであろう。情報通信との関連性が強い論文ではないが、マーケティング分野での学術的貢献は大きい。